

聖書日課 『からし種』 2019.4.7-14

<p>7日 (日)</p> <p>黙示録 12章</p>	<p>「女は身ごもっていたが、子を産む痛みと苦しみのため叫んでいた」(2節)「女は男の子を生んだ。この子は、鉄の杖ですべての国民を治めることになっていた」(5節)。痛みと苦しみの中、子を産んだ女は竜や蛇からの攻撃を受けていた。しかし、女には神が場所(荒れ野)を用意されていた。私たちの歩みの苦しみ、痛みの中にも神の養いがあることを信じて。</p>
<p>8日 (月)</p> <p>黙示録 13章</p>	<p>「耳ある者は、聞け。…聖なる者たちの忍耐と信仰が必要である」(9-10節)。神を冒瀆する者が、力を持ち、全地を支配する。その支配は続き、命までも支配する。命(生活)と引き換えに偶像礼拝を強いられる。主と共に生きることが困難と感じる中でも、神の下さる「信」をもって、主の言葉を待ち望み、歩む者とされたいと願います。</p>
<p>9日 (火)</p> <p>黙示録 14章</p>	<p>「この天使は、地上に住む人びと、あらゆる国民、種族、言葉の違う民、民族に告げ知らせるために永遠の福音を携えて来る」(6節)。地上に住む全ての国民に、永遠に変わらない福音、十字架のイエス・キリストが知らされる。労苦しながらも主に結ばれて歩み続ける者を、神は「幸いだ」と声をかけてくださり、安らぎとその行いへの「然り」を備えてくださる。</p>
<p>10日 (水)</p> <p>黙示録 15章</p>	<p>「聖なる方は、あなただけ。すべての国民が、来て、あなたの前にひれ伏すでしょう。あなたの正しい裁きが、明らかになったからです」(4節)。神の怒りの大きさは私たちへの愛の大きさ。主の道は、正しく真実なもの。その道を歩めない私たちの前には、すでにイエス・キリストの十字架の贖いがある。その恵みに感謝して、今日生きる力を与えられますように。</p>

聖書日課 『からし種』 2019.4.7-14

<p>11日 (木)</p> <p>黙示録 16章</p>	<p>「見よ、わたしは盗人のように来る。…目を覚まし、衣を身に着けている人は幸いである」(15節)。神の怒りは、七人の天使によって、私たちに知らされる。その怒りの間は、苦難があるが、神の時が来ると、私たちは全能者である神の裁きが真実であり、正しいことを知らされる。その時は、静かに、気づかないうちにやってくる。その「時」を待ち望んで。</p>
<p>12日 (金)</p> <p>黙示録 17章</p>	<p>「小羊は主の主、王の王だから、彼らに打ち勝つ。小羊と共にいる者、召された者、選ばれた者、忠実な者たちもまた、勝利を収める」(14-15節)。私たちが一人では太刀打ちできない力(権力や罪)にも、イエス・キリストによって勝利が約束されている。どんな困難な中でも平和の主が、私たちを神の勝利へと導いてくださることを信じて、歩みたい。</p>
<p>13日 (土)</p> <p>黙示録 18章</p>	<p>「お前の望んでやまない果物は、お前から遠のいて行き、華美な物、きらびやかな物はみな、お前のところから消えうせて、もはや決して見られない」(14節)。人が求める豊かさや人を支配したくなる力は、いつか遠のき、消えてしまうもの。しかし、神が下さるものは、消えることなく、滅びることがない。十字架のイエス・キリストの希望を求める生き方へと導かれて</p>
<p>14日 (日)</p> <p>黙示録 19章</p>	<p>「わたしたちは喜び、大いに喜び、神の栄光をたたえよう。小羊の婚礼の日が来て、花嫁は準備を整えた。…この麻の衣とは、聖なる者たちの正しい行いである」(7-8節)。地上の邪悪が減ぼされる最中に、天では小羊(キリスト)の婚宴が祝われ、不当な迫害を受けた「正しい行い」は神の前で賛美に変えられていく。この希望に励まされ歩むことができるように。</p>